

今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



畑作・園芸編も
HPで公開中!

1 地域の生育状況(普及センター調べ)

・7月1日現在の状況は、 m^2 当たり茎数は平年と比較し「うるち74%」と少なく「もち137%」と多い状況です(表1)。

表1 7月1日の稲の生育(うるち:成苗ななつぼし もち:中苗風の子もち)

		草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/ m^2)	分けつ 始	幼穂 形成期	止葉期	出穂期	生育 遅速
うるち	本年	43.5	9.3	379	6/6	6/29			-2
	平年	46.7	9.3	510	6/4	6/27	7/15	7/26	
もち	本年	37.5	8.2	156	6/10				+2
	平年	35.8	7.9	166	6/10	7/6	7/23	8/3	

※出穂期: 全茎数の40~50%が出穂した日

2 幼穂形成期から冷害危険期終了までの水管理

幼穂形成期から約20日間の水管理がカギとなります。水深は図1を参考に「幼穂」が常に水面下になるように調節し、花粉を増やして稔実歩合を高めましょう。

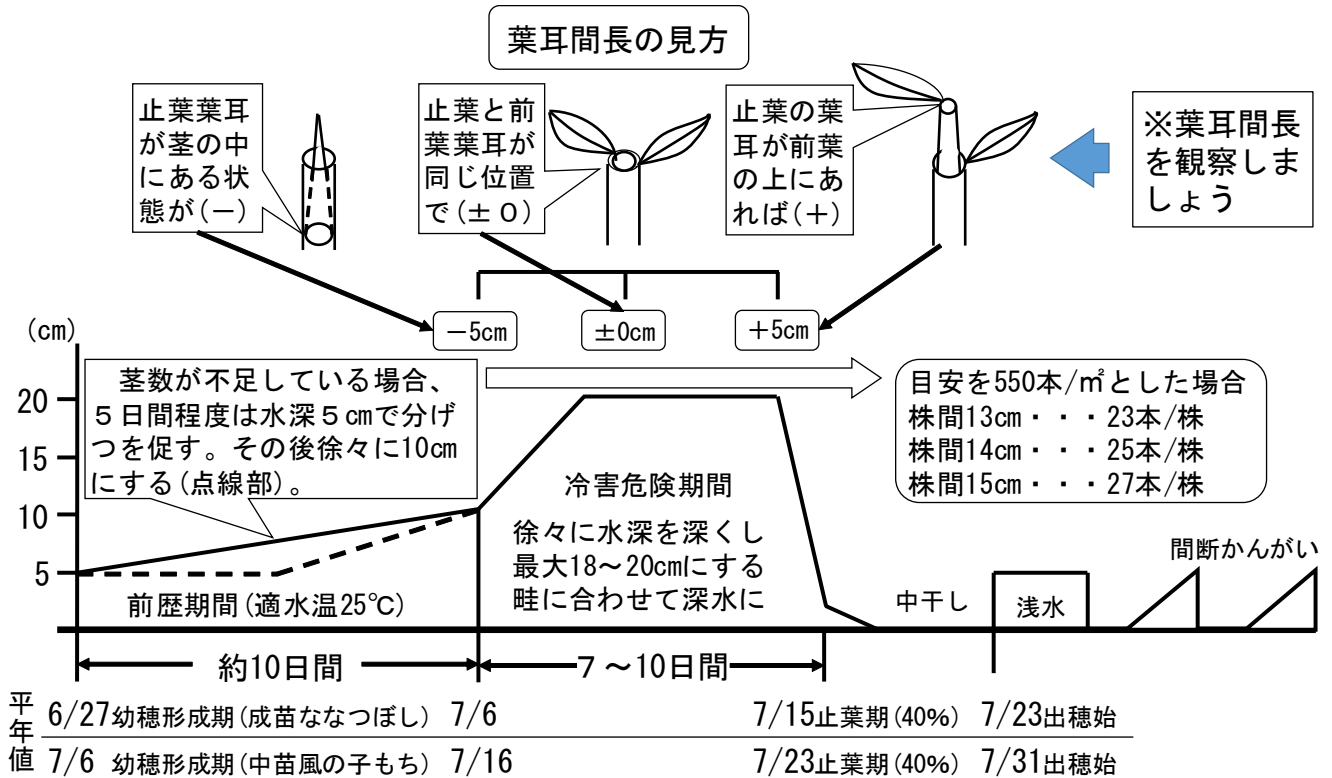


図1 平年の幼穂形成期から想定される水管理の模式図

(1) 入水のポイント～1日1cmをめどに徐々に深水を～

入水は、用水温と水田水温の差が少ない夜間～早朝に行いましょう。

(2) 冷害危険期の終了

80%の茎の止葉葉耳が+5cmになったら冷害危険期の終了です。出穂直前までの間に中干しを行って根に酸素を供給しましょう（溝切りの併用）。

3 「ワキ」の発生状況と対策

透排水性が不良なほ場や稲わらが多くすき込まれているほ場では「ワキ」の発生が見られます。「ワキ」は根を傷め、生育を停滞させるため、前歴期間前並びに冷害危険期終了後、下記の対策を行って根の活性化を図りましょう。

表2 「ワキ」の発生状況と対処方法

		水田の状態	対処方法	
ワ キ の 程 度	少 ↓	水田に入ってもアブクがわずかに出る または出ない	→	通常管理・暗渠水こうの開放
	中 ↓	水田に入るとアブクが「ブクブク」という程度	→	暗渠水こうの開放・水の入れ替え
	多	水田に入るとアブクが激しく出る	→	好天日が続くと予想される日を 狙って中干しを行う

4 病害虫防除

【いもち病】

(1) 見歩き調査法

過去に発生した水田」や「復元田で葉色が濃い過繁茂のところ」「沢地や建物の陰など風当たりの弱いところ」を、降雨の7～10日後は必ず観察しましょう。

(2) BLASTAM情報(葉いもち病発生予測システム)の活用

北海道病害虫防除所が提供しているBLASTAM(ブラスタム)情報を活用しましょう。近隣市町村も含めて感染好適日や準感染好適日を確認しましょう。

※いもち病の発生が見られた場合は早急な防除対応が必要となりますので
JAまたは普及センターまで連絡してください。

補植用の取り置き苗
は発生源になるので
必ず除去しましょう



BLASTAM情報の
QRコード

【アカヒゲホソミドリカスミカメ(カメムシ)】

(1) 雑草処理

出穂期の防除までに、畦畔や雑草地の草刈りを終わらせましょう。

(2) 基幹防除の実施

基幹防除(出穂期+出穂期から7日後)は必ず実施しましょう。基幹防除5日後にすくい取り(20回振り)を行い、カメムシの頭数を確認しましょう。1頭以上の場合は追加防除の検討も必要です。

農作業機による事故や怪我に注意しましょう！